AMDA
多様性の共存
ジャーナル

2019年10月25日 VOL.42 第291号 定価550円
発行／AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1
TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
E-mail:member@amda.or.jp
郵便振替：01250-2-40709 口座名：特定非営利活動法人アムダ

2019年
秋号
秋

救える命があればどこへでも

連載インタビュー「支える喜び」シリーズ 第22回
トマト銀行 取締役社長 髙木 晶悟 様

特定非営利活動法人アムダ（AMDA）
https://amda.or.jp/
特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
https://www.amda-minds.org/
特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
https://www.amdamedicalcenter.com/
AMDA 兵庫
http://amda-hyogo.com/

AMDAを支えてくださっている支援者の皆様に、インタビュー形式で様々なエピソードをお伺いしている「支える喜びシリーズ」。22回目となる今回は、トマト銀行（岡山市北区番町）の取締役社長として、AMDAに温かいご支援を頂いている髙木晶悟様にお話を伺いました。（聞き手:広報担当参与 今井 康人）

AMDA 2015年から毎年、AMDA国際医療貢献定期預金を取り扱いして頂くなど大変お世話になっています。

髙木社長 AMDAさんの理念である「相互扶助」は当社の創業の原点と同じ。双方の取り組みは違っても「困った時はお互い助け合う」という精神で頑張っておられるAMDAさんには、すごく親近感を感じています。

AMDA ありがとうございます。ところで、1989（平成元）年に山陽相互銀行からトマト銀行と社名変更をされ、今年で30周年を迎えられました。

髙木社長 当時はカタカナの社名の銀行は珍しい時代でしたので、全国のマスコミがこぞって取り上げ、その年の新語・流行語大賞の新語部門「銅賞」にも選ばれました。

AMDA 社名変更のエピソードを教えてください。

髙木社長 当時の吉田憲治社長から1対1の管理職面接試験を受けた際、突然「新しい銀行名は何が良いか」と質問されました。頭をフル回転させて咄嗟に思いついて口にしたのが「マスカット銀行」でした。吉田憲治社長は、しばらく間を置いて「マスカットも考えたが、マスカットは高級すぎて庶民の食べものとは言い難い。当社が目指す銀行のイメージは、明るく、元気で、そして庶民的な銀行であり、マスカットのイメージと合っていない。毎日食べることができ、みずみずしく、健康的で、暮らしに役立つトマトにしようと思う。」と述べられたことが印象に残っています。その後トマト銀行の名前が発表されると、最初は社内で反対の声もあったのですが、徐々に世間に認知され、評判が高まってくるに連れ、社員のモチベーションも上がっていきました。

AMDA トマト銀行としての営業初日はどんな様子でしたか。

髙木社長 営業初日となった平成元年4月3日午前9時、入り口のドアが開くと、たちまち窓口にはお客さまがあふれ、その様子を取材するマスコミも加わり、人の山ができました。この日だけで全店で4万3700人が来店し、預金は630億円増加しました。

AMDA ところで、今年は多彩な30周年記念事業を繰り広げられていますね。

髙木社長 おかげさまで、本年4月1日でトマト銀行への社名変更30周年を迎えることができました。これを記念して、地域への恩返しを目的にトマト復興応援私募債・トマト地方創生私募債の寄付金増額をはじめ、トマト復興応援定期預金の取り扱い、被災地でのボランティア活動、被災地の福祉施設でのブラスバンド同好会による慰問演奏会、東京で岡山の食を紹介する物産展の開催など、様々な取り組みをおこなっています。

AMDA 趣味は読書と映画鑑賞と伺っていますが、座右の銘を聞かせてください。

髙木社長 幕末の志士・高杉晋作の辞世の句「おもしろきこともなき世をおもしろく」です。人生は山あり、谷ありですが、だからこそ心を前向きにして楽しく生きようと私自身の戒めにしています。

AMDA 今後の抱負を教えてください。

髙木社長 当社は、お客さまが困ったときにしっかり応援させて頂く、つまり「雨の日に傘を差し出す」「雨の日の傘になる」面倒見の良い銀行を目指しています。これからもお客さまに徹底的に寄り添うことで、一番に相談され、一番信頼される存在になれるよう、役職員一丸となって頑張ってまいります。

（インタビュー内の敬称は省略させていただきました）

AMDA 次世代育成「TAPP」プログラム

TAPP プログラムは、AMDA, AMSA（アジア医学生連絡協議会）, AMSA Alumni（AMSA 卒業生部会）の三者がパートナーとして AMDA の経験を次世代に活かす育成事業です。

シンガポール国立大学医学部との本事業は、昨年に続き今回２回目となり、５月 13 日から６月８日まで同大学の 14 名の学生がネパールのトリブバン大学教育病院と AMDA ダマック病院でそれぞれの医療専門分野の研修を受けました。またブータン難民キャンプを訪問し、難民医療支援の現場を体験しました。参加者は、「様々な活動の現場を見ることができ、限られた資源、資材、資金、人材を最大限に利用して、医療サービスを行われていることに感動しました。」との声が聞かれました。

また、８月 23 日、AMSA Japan が主催する JaMSC（日本医学系学生キャンプ）で AMDA 理事、佐藤拓史医師が「海外の医療技術協力及び災害医療支援 (地域×国際活動編)」と題して自身のそれぞれの現場で求められる医療支援の厳しい現状について講演しました。「医療の専門家として大切なのは、専門知識をしっかりと身につける事に他ならない。」と、言い訳のできない医療現場の厳しさとともに達成感や充実感についてもエピソードを交えながら話しました。参加した学生からは、「被災地やスラム街などで、医者は医者として働くのが当たり前だと思っていましたが、『医者だけど何でもやります』という言葉が印象的でした。経験談だけでなく、先生の考え方や AMDA の理念がお話を通して伝わってきましたし新たな見方を得られた貴重な時間でした。」という感想が聞かれました。

ネパールで研修するシンガポール大学の学生たち

AMDA はこれからも AMSA との協力関係強化をはかり、次世代の育成に努めてまいります。

（AMDA 理事　難波　妙）

仙台市内の路上生活者　続く横ばい状態　影を落とす東日本大震災の後遺症

一面が雪野原の中で段ボールを敷いて眠る人たち。凍死しないよう夜は町を徘徊し、昼間にうたた寝をする人たち。こんな過酷な中で、どうして野宿をするのでしょうか。ある人がぽつりと言いました。「故郷の東北で死にたいんだよ」。

路上生活者の安否確認をしている NPO 法人「仙台夜まわりグループ」がまとめた報告書（2018 年４月～2019 年３月）に掲載された一文です。2000 年１月 13 日から活動を始め、まもなく 20 年の歳月を経ようとしている団体です。

この報告書によると、2000 年当時、仙台市で 200 人を超えていた路上生活者はその後、半分の約 100 人に減少。ところが、東日本大震災（2011 年３月 11 日）以来、その数は横ばい状態が続いています。

炊き出しに集まる路上生活者

毎年、数多くの人が路上からの脱却を果たす一方で、新たに路上生活に陥ってしまう人たちが引きも切らないのが現状なのです。

AMDA では東日本大震災をきっかけに、今日を生きる糧となる食糧支援を継続的に実施していますが、まだまだ不十分なのが実情です。自立支援に向け、皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

報告書に掲載された路上生活者の声の一部を紹介させて頂きます。

【40 代男性】とにかく仙台の路上は寒かった。死にそうなくらい寒かった。もう今年の冬は越せないと思った。どこで歯車が行き違ってしまったんだろう。別世界のように思っているだろうが、誰もがそうなる可能性がある社会であることを知ってほしい。

【50 代男性】誰だって自分で稼いで迷惑を掛けず生活をしたい。「ホームレスは働く気がない」という人もいるけど、一度ハローワークがどういう状態か見てほしい。

【30 代男性】職場での人間関係とかいろんなことで疲れてしまって。自殺しようと川に飛び込んだ。でも凍えるように寒くて。死ねない自分が情けなくて。生きることって何が楽しいのか、小さい頃から未だに分からない。これから生きる意味を見つけたい。

【60 歳男性】宮城県の沿岸部で妻と暮らしていたが、あの震災で家も妻も流され、人生が一変しちゃった。義援金は生活費に使い果たした。年齢が年齢だから仕事が見つからない。

（広報担当参与　今井　康人）

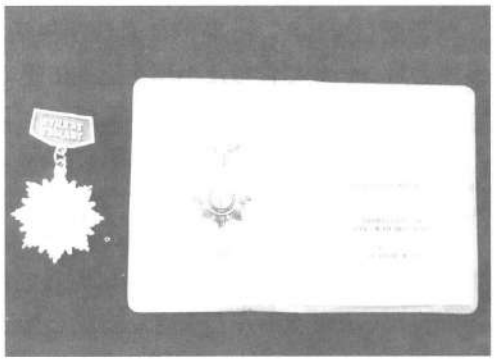
モンゴル保健大臣より AMDA 理事 佐藤拓史に名誉勲章

モンゴル国立医科大学より AMDA へ感謝状授与

2019 年 9 月 10 日、佐藤拓史医師のこれまでのモンゴルにおける内視鏡技術及び救命救急技術移転への貢献が認められ、モンゴル保健大臣より名誉勲章が授与されました。

またモンゴル国立医科大学からは、日本モンゴル教育病院への医療技術支援に対して感謝状が AMDA へ授与されました。

保健省、サランゲレル保健大臣からの佐藤医師への名誉勲章は、AMDA の長年にわたるモンゴルでの医療活動の一環として佐藤医師が 2017 年よりモンゴル国立医科大学で内視鏡技術向上を目的に講義や実技講習を実施し、加えてウランバートル救急サービス 103 では、救命救急の技術を実践的に指導してきたことが認められ、今回の叙勲に至りました。この名誉勲章は、モンゴルの保健医療分野に貢献した外国人に授与されるものです。この叙勲を保健大臣に代わり伝達したモンゴル国立医科大学バトウンダラフ副学長は、過去の佐藤医師の活動に加え、今年 3 月の日本モンゴル教育病院の開院を前にして国立医科大学病院で行われた内視鏡技術指導、ウランバートルから車で 7 時間、375Km のオルホン県エルデネットで 2 日間にわたって行った救急医療技術ならびに災害救急についての講義と実技指導が、モンゴルの医師たちに非常に有意義であったこと、そして来年もヘンティ県やアルハンガイ県での救急医療技術、モンゴル国立医科大学での内視鏡技術に関する佐藤医師の協力に期待感を示しました。



佐藤医師に贈られた名誉勲章

モンゴル国立医科大学で内視鏡の技術指導を行う佐藤医師

また、同日、モンゴル国立医科大学ツォルモン学長からは、2008 年以来、AMDA が行ってきた AMSA（アジア医学生連絡協議会、菅波代表が学生時代に 1980 年に設立した団体）への事業協力ならびに 2017 年からの佐藤医師の内視鏡技術支援、岡山県済生会病院でのモンゴル人内視鏡医研修事業など、大学教育における AMDA の協力が、優秀な医学生の学びや成長につながり、学生が世界に視野を広げるきっかけとなったこと、研修医のみならず、内視鏡専門医の技術の向上に大いに貢献していることに対する感謝とともに感謝状が渡されました。同席していた同大学病院オトゴンバヤル病院長は、「私自身も佐藤医師の内視鏡検査をうけた経験があり日本の高度な技術を実感しています。今後も AMDA には幅広い医療分野での協力を期待していいます。」と述べられました。

モンゴル国立医科大学学長（中央）から AMDA へ感謝状

さらには、2008 年からモンゴル事業を担当する AMDA 理事、難波妙にもモンゴル国立医科大学より大学教育に貢献した人に送られるメダルが授与されました。

モンゴル国立医科大学よりメダル授与

佐藤医師のコメント

この身に余る叙勲を受け、モンゴルの未来へ繋がる AMDA らしい医療支援活動の継続性に対して、大きな責任を自覚しております。

医療支援活動の中で本当に必要なことをその国の人々と話し合いながら、その要請に応えて行ける医療専門家チームを充実させていくことが不可欠です。様々な方面から力をお貸しいただき、AMDA らしい活動ができていることを改めて実感しています。日頃から AMDA を支援していただいている方々に深く感謝致します。

（AMDA 理事　難波　妙）

相次ぐ風水害　国内外に緊急派遣

九州北部豪雨

AMDA鍼灸師による災害鍼灸活動

長崎県から佐賀県、福岡県にかけての広い範囲で、秋雨前線の影響で線状降水帯が発生し、8月28日を中心として各地で観測史上1位の値を更新する記録的な大雨となり、死者3人、行方不明者1名、1,700棟を超す住宅被害を出す大きな被害となりました。

8月29日にAMDAは、大規模災害に備えて連携協力協定を締結しているさめじま病院（佐賀市）と連絡。現地での活動の協力が得られることになり、看護師2名と調整員1名の派遣を決定。その日のうちに佐賀県に入り活動を開始しました。

翌日、被害の大きかった武雄市や大町町などを所管する杵藤（きとう）地域保健医療調整本部の会議に参加。その日から大町町の2か所の避難所で活動を行うことになりました。大町町は住宅の被害以外にも順天堂病院の浸水、工場からの油の流出、ボタ山の土砂崩れと大きな災害に見舞われていました。

AMDAチームは大町町での活動に向け、看護師1名、調整員2名を増員。町の保健師と協力して、避難者の現状調査、健康管理支援などの活動を行いました。また、1日限定ではありましたが災害鍼灸活動も実施し、疲労のたまっていた避難者の方に大変喜ばれました。

9月3日に地元の医療機関が機能していたことや、行政での対応が軌道に乗ったことを確認し、チームは帰路につきました。

（赤磐市職員・AMDA本部出向中　山田　章博）

バングラデシュ洪水

バングラデシュでは7月上旬から降り続いた雨で北部地域で洪水が発生。700万人以上が被災しました。AMDAは7月23日、看護師2人を現地に派遣。現地到着後、AMDAバングラデシュ支部と合流し、支援準備を行いました。

7月27日から31日までの5日間、AFAD（現地NPO）、AMDAバングラデシュ支部とAMDA本部との合同チームは、バングラデシュ北部洪水被災者緊急支援活動として、特に洪水被害の大きいクリグラム県で医療支援及び物資支援活動を実施しました。

合同チームの医療支援活動の中で、診察を受けた患者の1人である、シャヒダさんは40代女性で、7人家族。洪水の際には、首の上まで水がきて何とか避難しました。一時的に避難所生活を送った後、木とビニールで作った小屋を道端に建てて住んでいました。「毎年洪水被害はあるが、今年は特にひどい。被災から2週間以上経過したが、あと10日くらいは水が引かないと思う。今回、医師に持病の胃腸炎を診てもらえた。AMDAの場合、地元医師が個別に話を聞いて、適切な薬を処方してもらえたことが良かった」とシャヒダさんは話しました。今後はAMDAバングラデシュ支部を中心に更なる復興支援を検討中です。

（バングラデシュ担当　橋本　千明）

血圧を測るAMDA看護師

インド南西部洪水

8月中旬、インド南西部が洪水被害に見舞われました。AMDAインド支部医師は、8月13日にカルナタカ州コダグ地区で同州のニーズ調査に同行し、更に避難者に衛生教育を実施しました。8月25日には、現地ライオンズクラブと協力し、カマト支部長率いるAMDAインド支部チームはカルナタカ州ウッタラカンナダ地区内にある学校で物資支援を行いました。計52世帯にお米20kgのほか、食器、衣類、バスタオル、ブランケット、ござとアユルベーダの薬セットを配布しました。　（インド担当　岩尾　智子）

被災者に支援物資を渡すカマト支部長

令和元年台風 15 号

9 月 9 日に千葉県に上陸した台風 15 号の影響で、3 日経過した 12 日も停電、断水などが同県南部を中心に続いており、1,000 人以上が避難所生活を余儀なくされていました。同日、AMDA は先遣隊として調整員を現地に派遣。翌 13 日、災害協力協定を結んでいる赤磐市保健師 1 人と AMDA からなる合同チームを結成し、同じく協力協定を結んでいる岡山県総社市職員 4 人と一緒に被災地に向けて出発しました。

聞き取り調査を行う AMDA 看護師

13 日から 4 日間、君津市と南房総市を管轄する各保健所に設置された保健医療調整本部の下、赤磐市・AMDA 合同チームは君津市では避難所の現状調査、南房総市では、避難所及び老人施設の現状調査と、市が対象としていた世帯の全戸訪問支援を行い、各市に結果を報告しました。調査の結果、停電、断水で困難な生活を強いられているところもありましたが、医療支援の必要がないことを確認し、食糧などの物資も目途がついていたことから AMDA は 16 日をもって活動を終了しました。なお、この活動に AMDA からは看護師 2 人、調整員 2 人が参加しました。

（国内災害派遣調整担当　岩尾　智子）

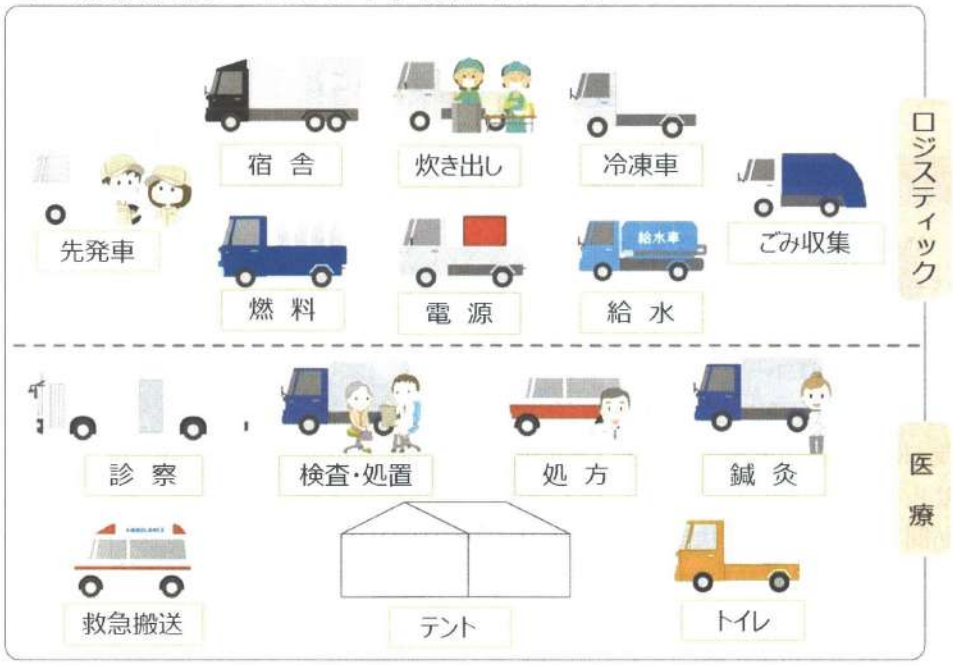
災害医療機動チームが発足

AMDA は 2019 年 7 月 28 日、西日本豪雨を教訓に、突然起こる災害に迅速に対応するため「災害医療機動チーム」を発足させました。AMDA が協力自治体をはじめ、医療機関、企業・団体などと事前に調整し、組織的で効果的な取り組みを狙った全国で初の試みです。医療チームを支える車両は、移動診療車をはじめ移動調剤車、宿舎や炊き出し、食材の冷凍車、燃料、電源、給水、ごみ収集などの車両で、AMDA の指示で被災現場に向かう仕組みです。機動チームは日本全国を網羅することが難しいため、日本を 8 地域に分けて順次、結成する予定で、今回の中国地方に続き、2020 年度は四国地域での発足を目指しています。

機動チームの合同事務局となる赤磐市は、大規模災害時の連携協力協定を AMDA と締結。3 年前から職員 1 人が AMDA 本部に出向しており、、友實武則市長は「機動チームがスムーズに活動できるよう、しっかりと役目を果たしたい」としています。

（広報担当参与　今井　康人）

医療機動チームの車両群イメージ



災害医療機動チーム構想

初の定例記者会見

AMDA は 2019 年 7 月 3 日、岡山市内にある新聞・テレビ局を対象とした初の定例記者会見を岡山市内で開き、「災害医療機動チーム構想」を発表しました。

定例会見は AMDA 理事長の菅波茂をはじめ、機動チームの合同事務局となる赤磐市の友實武則市長、西日本豪雨で被害を受けた総社市の片岡聡一市長が出席しました。

記者会見は国内外の災害地への派遣などの際、臨時で対応してきました。AMDA の幅広い取り組みはあまり知られていないことから、年 4 回程度の会見で広く活動を知ってもらう方針です。

（広報担当参与　今井　康人）

AMDA 中学高校生が活躍

黒潮町での交流活動

AMDA 中学高校生会 13 人は今年 1 泊 2 日の日程で黒潮町を訪問しました。防災について現地の中学生高校生との交流会を 8 月 31 日に、9 月 1 日には黒潮町の防災訓練に参加しました。3 回目となる今年の参加者はアルゼンチンの研修生 1 人（岡山県の事業として AMDA にて研修中）も合わせ 17 人、黒潮町からは佐賀中学校、大方中学校、大方高校、黒潮町教育委員会の方ら 21 人の参加があり、黒潮町内にある高知県立幡多青少年の家で、交流会を行いました。各それぞれ防災の取り組みの発表、AMDA 中学高校生会は昨年の西日本豪雨の体験を基に若者が防災、災害時にできることを発表しました。夕方から参加者全員で防災食としてアルミ缶でご飯を炊き、カレーを作りました。

防災食作り

2 日目の黒潮町防災訓練では実際の避難訓練後、訓練に参加された地域の中学生や住民に地元の様子や災害について、避難場所となった大方中学校でお話を伺うことができました。その後大方中学生との炊き出し訓練を行いました。今回、地域の中高生や地域住民との熱く深い交流ができたことが何よりの成果でした。そして岡山から黒潮町までの往復の輸送は、株式会社研美社代表取締役の油谷直幸会長のご好意でバスを用意していただきました。油谷会長自ら運転していただいたことは本当にありがたいことです。このように活動を支えてくださっている油谷会長から、「AMDA が大好きで、今回中学高校生会の元気で楽しい有意義な活動をみていると運転の疲れが吹っ飛ぶ。これからも声かけしてほしい」とお話しいただきました。参加した学校関係者、中学高校生会からは「大変有意義な活動で参加者の距離が次第に近づいていくのがすばらしい、ありがたい」「防災について中高生目線で考え、一人でも多くの人に高い防災意識を持ってもらえるようにこれからも活動続けていきたい」等の感想をいただきました。（AMDA ボランティアセンター事務局長　竹谷　和子）

避難訓練時住民との交流の様子

インドネシア訪問

AMDA 中学高校生会メンバー政木悠布さん、太田光瑠さんの二人は AMDA インドネシア支部のコーディネートで 8 月 7 日から 7 日間菅波茂 AMDA 理事長と共にマカッサルを中心にインドネシアを訪問しました。ハッサヌディン大学医学部病院で当大学の医学生、ムスリム大学 AMSA のメンバーと災害医療に関するミーティングに参加し、また 6 月に洪水に襲われたコナウエーを訪れ AMDA インドネシア支部の支援活動の状況を伺いました。そしてマカッサルに帰り、マリノ村を訪問しました。ここでは「かおり園」の園児と母親たちの検診をお手伝いしました。

インドネシア：かおり園での活動

今回の訪問で、政木さんは「患者の命を救うために懸命に働く医師の誇りと尊厳を強く感じました。医師として国際的に活動するという自分の夢がより明確になり、なにものにも代えがたい経験となりました」太田さんは「今回、現地で同世代の若者とじっくり話すことで、学校の勉強では学べないことをたくさん知ることができました。今回の訪問で学んだことも自ら行動しなければ得られませんでした」と感想（一部）を語っていました。　（AMDA ボランティアセンター事務局長　竹谷　和子）

ソロプチミストから表彰

8 月 19 日、国際ソロプチミスト日本西リジョン主催「日本西リジョンガールズ・サミット」が開催され AMDA 中学高校生会リーダーの政木悠布さんが参加しました。政木さんはこの夏 AMDA 中学高校生会の活動でインドネシアを訪問し経験したことを基に将来医師になり海外で活動したい、そのためにも多くの言語を学びたいと発表し、中四国の 55 人の参加者の中から最高賞「ガバナー賞」を受賞しました。

（AMDA ボランティアセンター事務局長
竹谷　和子）

ガールズ・サミット表彰の様子

AMDA マンスリーサポーター募集中

皆様からのサポートがあってこそ AMDA は迅速な活動を継続することができます。
被災地で苦しむ人々を救うため AMDA マンスリーサポーターとして支えていただけませんか？
詳しくは AMDA 事務局（086-252-7700、メール member@amda.or.jp）までお問合せ下さい。
（毎年 1 月に前年度分のご寄付に対する領収書をまとめて郵送いたします）
※ジャーナルに同封する払込票は、すべての方に会費・寄付金を催促するものではありません。

第 6 回 AMDA 災害鍼灸チーム育成プログラム

第 6 回 AMDA 災害鍼灸チーム育成プログラムが 2019 年 7 月 27、28 日の 2 日間、岡山市北区奉還町の朝日医療大学校で開かれ、全国から 58 人の鍼灸師や学生が受講。災害時の効果的な治療法などを学びました。

初日は、AMDA の菅波茂理事長が「鍼灸の特徴は患者の体に触れること。あなたを見放さないというメッセージにつながり、相手に安心感を与えるメリットは大きい」とあいさつ。

AMDA 災害鍼灸ネットワーク代表世話人で帝京平成大学（東京）の今井賢治教授は、被災地への鍼灸師派遣は増え続けていると説明。避難者の予診表を分析した結果などから「腰やひざの痛みの軽減やストレス低下の効果が出ている」と話しました。

熊本地震（2016 年 4 月）をきっかけに結成した AMDA 熊本鍼灸チームの吉井治リーダーは、避難所となった熊本県広安小学校での活動を紹介。7 月 19 日の鍼灸治療終了までに患者はもちろん、鍼灸師の疲労もピークに達したと明かしました。

AMDA 理事で東亜大学（福岡県）の佐藤拓史教授は、医師や看護師、鍼灸師ら様々な専門家の総合診療の必要性を強調しました。

朝日医療大学校副学校長の山口大輔氏が質疑応答

朝日医療大学校副学校長の山口大輔氏は、救急災害訓練に調整員として参加した経験を披露。錯綜する情報の中で的確な判断の大切さを訴えました。

続いて、今井教授をコーディネーターにシンポジウムが開かれました。

（広報担当参与　今井　康人）

AMDA ピースクリニックの挑戦

＊支援医師の思い＊

インド・ビハール州ブッダガヤ ㊥

インド・ビハール州ブッダガヤにある AMDA ピースクリニック（APC）は地域のニーズに応えるため、2014 年から妊産婦ケアを中心とした母子保健支援に切り替えました。現地で診療に意欲を燃やす女性のバルマ医師にお話を伺いました。

写真左：バルマ医師

AMDA　APC との出会いを教えてください。

バルマ医師　地元の知人から紹介されたのがきっかけです。私はブッダガヤで産婦人科クリニックを開いて 16 年になります。その経験を社会貢献に生かしたいという思いがあり、ＡＰＣに携わっています。

AMDA　産婦人科を専門に選ばれたのはなぜですか。

バルマ医師　女性のために何かしたいという思いからです。特にブッダガヤでは、女性の患者は女性医師に診察してもらいたいという思いが強いのです。

AMDA　診察中に気が付いたことはありますか。

バルマ医師　貧困の中で生活しており、教育を受けていない女性が妊婦になるケースがほとんどです。情報を得る手段が限られるため、間違った固定観念を持っていることがあります。例えば、栄養価が高いものは高価だと信じている人もいます。ただ、地元で採れる野菜などにも必要なビタミンや鉄分が多く含まれていることを知れば、食生活の改善はできるのです。正しい知識を伝えることの重要性を感じます。

AMDA　ブッダガヤの妊婦に多くみられる症状を教えてください。

バルマ医師　栄養不足、貧血の妊婦が一番多いです。サプリメントを渡すだけでなく、APC スタッフによる栄養指導も実施しています。早産・流産の原因となり得る子宮奇形や感染症罹患しているなど慎重な経過観察を必要とする妊婦もいます。5 カ月前には APC に来ていた子宮奇形の妊婦が帝王切開で第一子を出産しました。この方は、妊産婦ケアを受ける前は 2 度流産の経験をされていたので、とても印象に残っています。

AMDA　日本の方々へのメッセージをお願いします。

バルマ医師　AMDA ピースクリニックはとても素晴らしい母子保健活動を行っています。これからもご支援をよろしくお願いします。（インド担当　岩尾　智子）

AMDA ピースクリニックの挑戦は今回が 2 回目です。最終回はジャーナル冬号で「信頼関係の構築」を掲載します。